

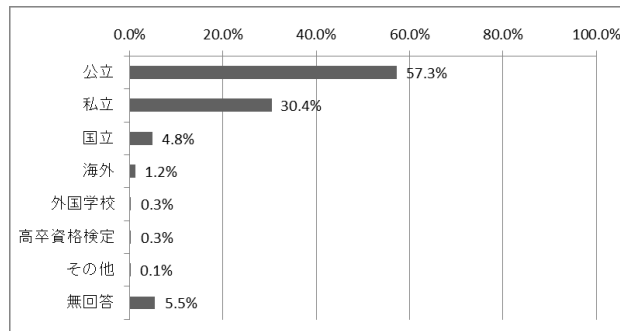
7 入試とお茶大生の属性

1. お茶大生の属性

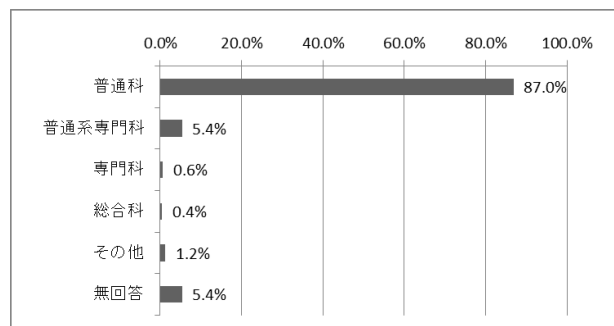
1) 出身高校(学部生)

お茶大生の出身高校を見ると、公立高校の出身者が57.3%、私立高校が30.4%、国立高校が4.8%、海外の高校が1.2%という結果となった。また、出身学科については、普通科が87.0%と大多数を占め、普通科系専門科が5.4%、専門科が0.6%、総合科が0.4%であった。

図表 7-1 出身高校の設置者

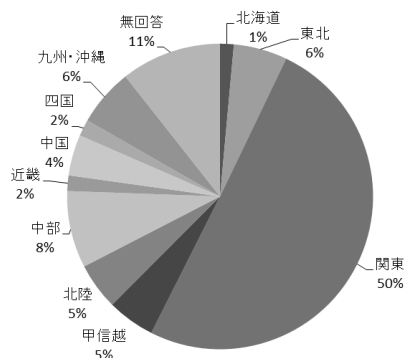


図表 7-2 出身高校の学科



出身高校の所在地を確認すると関東が半数であり、それ以外だと、中部8%、東北と九州・沖縄が6%、甲信越と北陸が5%、近畿、四国が2%、北海道が1%という結果であった。

図表 7-3 出身高校の所在地



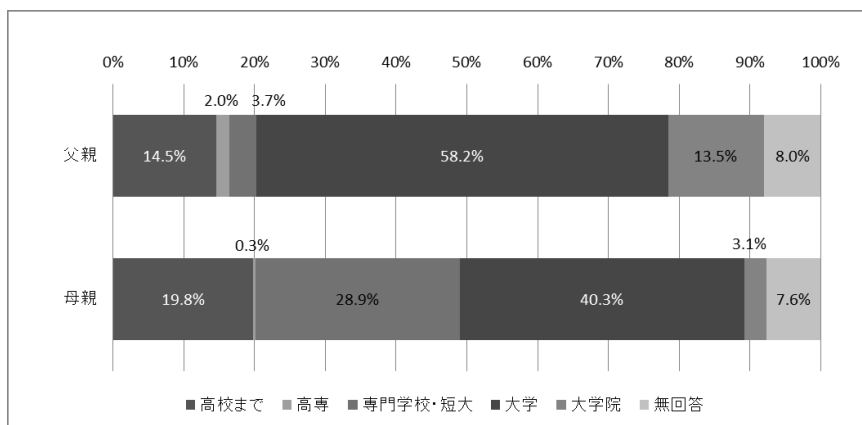
2) 家庭的背景

本学のような国立大学法人に進学する学生の家庭的背景は、国の教育・福祉政策の決定において非常に重要な留意点となる。

2007年に実施された全国大学生調査コンソーシアム／東京大学大学経営・政策研究センター「全国大学生調査」によると、父親の学歴は高校までが32.7%、高等専門学校が3.8%、専門学校・短期大学が5.4%、大学が46.8%、大学院が5.0%、母親の学歴は高校までが37.6%、高等専門学校が3.1%、専門学校・短期大学が27.5%、大学が24.9%、大学院が1.1%であった。

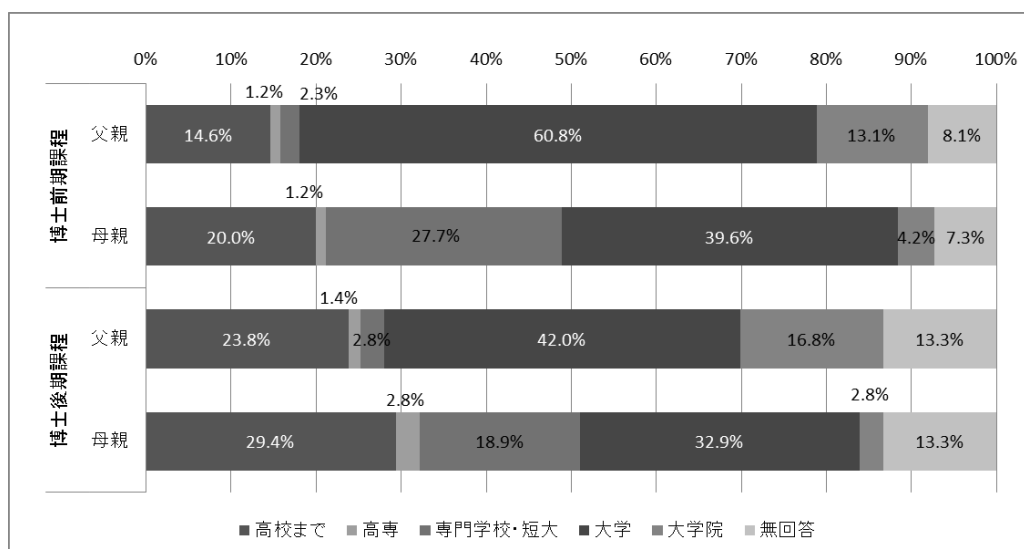
これに対し、お茶の水女子大学の学生の父親の学歴は高校までが14.5%、高等専門学校が2.0%、専門学校・短期大学が3.7%、大学が58.2%、大学院が13.5%、母親の学歴は高校までが19.5%、高等専門学校が0.3%、専門学校・短期大学が28.9%、大学が40.3%、大学院が3.1%であった。「全国大学生調査」にくらべ、高校までという学歴をもつ割合が低く、父親については大学、大学院、母親については専門学校・短期大学、大学の学歴をもつ割合が高かった。

図表 7-4 親の学歴(学部)



大学院生の親の学歴を見ると、父親の学歴については、博士前期課程の学生では学部生の傾向と変わらない。博士後期課程については父親、母親ともに高校までの学歴をもつ割合が高く、その一方で父親の最終学歴が大学院である割合も若干高かった。

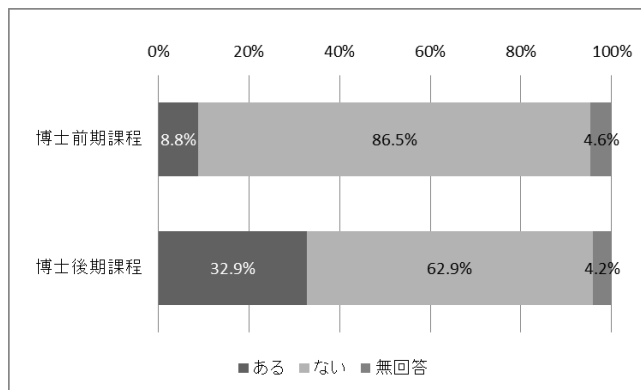
図表 7-5 親の学歴(大学院)



3) 常勤経験

現在、社会人経験のある者が大学院に来る割合が増加している。大学院生に常勤に就いた経験を尋ねたところ、博士前期課程では8.8%、博士後期課程では32.9%いることが分かった。

図表 7-6 常勤に就いた経験(大学院)

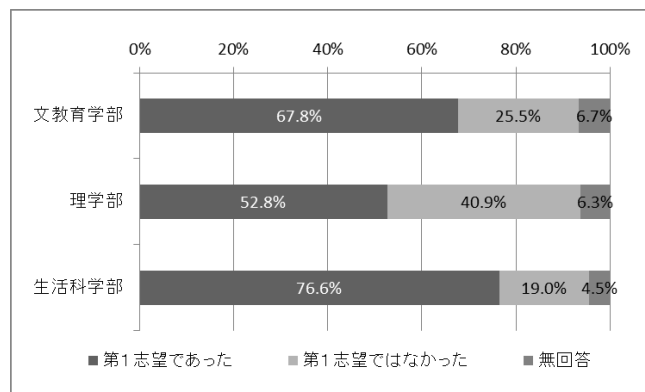


2. 入試

1) お茶大は第1志望か

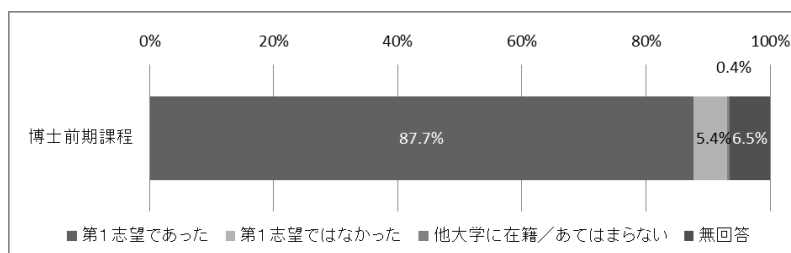
お茶の水女子大学を第1志望として入学しているかどうかを尋ねた結果を示したのが図表7-7である。とくに生活科学部でその割合が高く76.6%、つぎに文教育学部の67.8%、理学部の52.8%であった。いずれの学部も過半数の学生がお茶の水女子大学を第1志望として入学していた。

図表7-7 お茶大は第1志望か(学部)

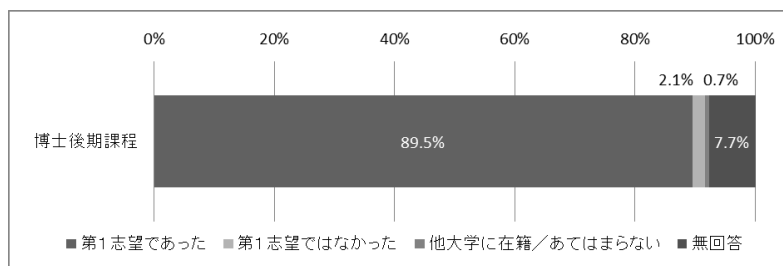


大学院生については、博士前期課程の学生の87.7%、博士後期課程の学生の89.5%がお茶の水女子大学を第1志望として入学している。

図表 7-8 お茶大博士前期課程は第1志望だったか(大学院)

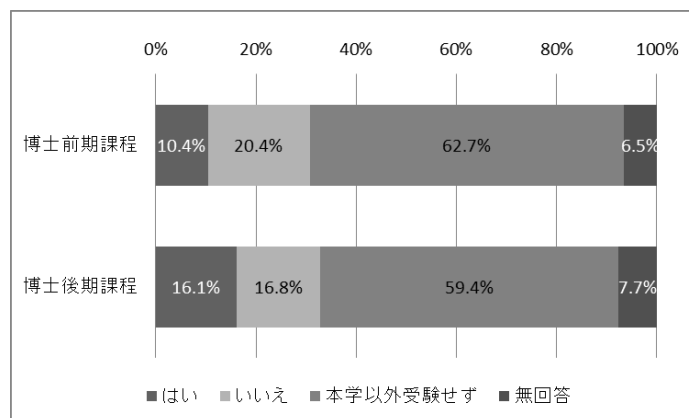


図表 7-9 お茶大博士後期課程は第1志望だったか(大学院博士後期課程のみ)



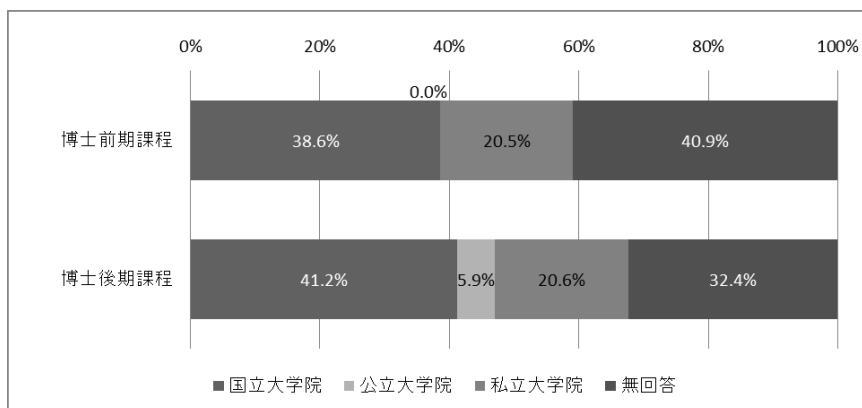
お茶の水女子大学以外にも合格した大学院の有無を尋ねたところ、博士前期課程では10.4%、博士後期課程では16.1%の学生があると答えた。一方、お茶の水女子大学以外を受験していない学生が6割を超えた。この割合は前回調査平均の43.7%を大きく上回っている。

図表 7-10 お茶大以外にも合格した大学院の有無(大学院)



上記の質問でお茶大以外にも合格した大学院があると答えた者に、お茶の水女子大学以外に合格した大学院で最も進学したかった大学院の設置者を尋ねたところ、国立が4割、私立が2割ほどであった。

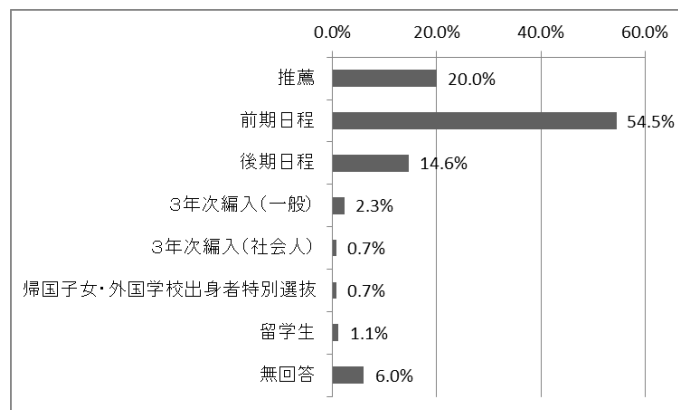
図表 7-11 お茶大以外に合格した大学院で最も進学したかった大学院の設置者(大学院)



2) 入試方法

学部生の受験した入試方法については、前期日程が 54.5%と過半数を占め、つぎに推薦 20.0%、後期日程 14.6%、3 年次編入（一般） 2.3%、3 年次編入（社会人） 0.7%と続いた。

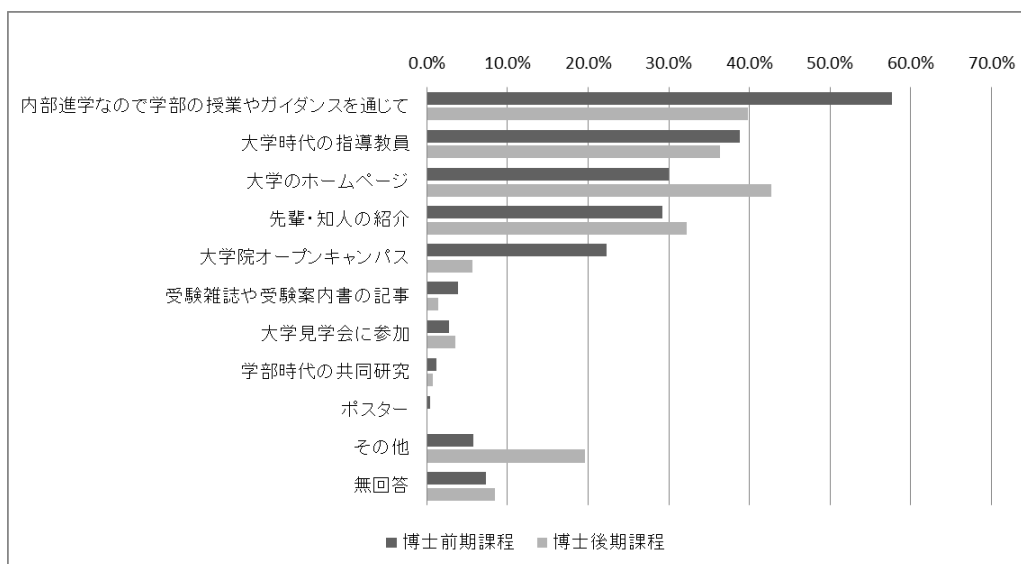
図表 7-12 受験した入試方法(学部)



大学院生に大学院受験の際の情報源を尋ねたところ、博士前期課程の学生の 6 割近くが「内部進学なので学部の授業やガイダンスを通じて」、つぎに 4 割が「大学時代の指導教官」、3 割が「大学のホームページ」と「先輩・知人の紹介」、2 割強が「大学院オープンキャンパス」と続いた。

博士後期課程の学生については、4 割強が「大学のホームページ」、続いて 4 割が「内部進学なので学部の授業やガイダンスを通じて」、3.5 割が「大学時代の指導教員」、3 割が「先輩・知人の紹介」となった。

図表 7-13 大学院受験の際の情報源(多項選択・3つまで)(大学院)

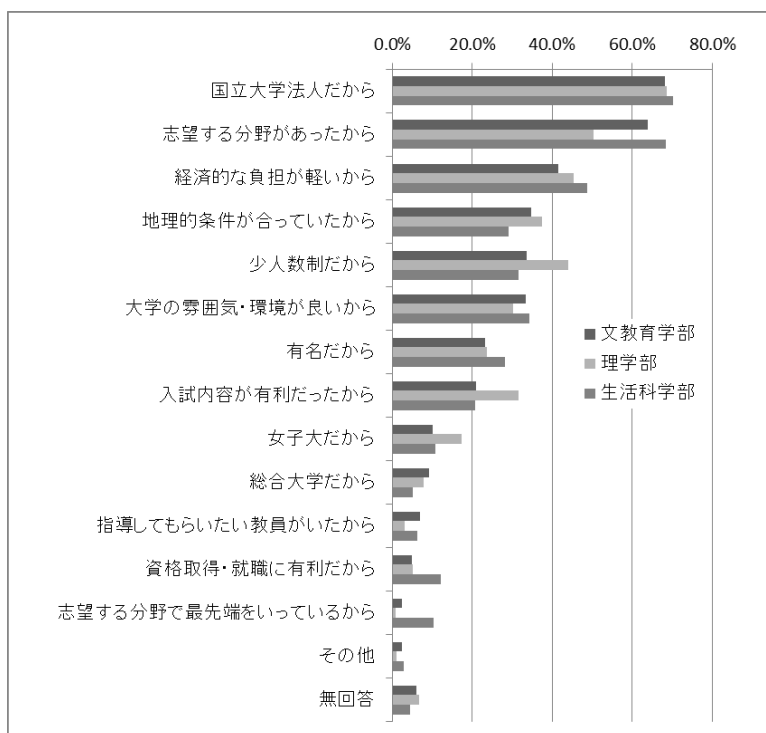


3. お茶の水女子大学を選択した理由

自分の学力や入試の難易度以外に、お茶の水女子大学を選択した理由で重視したものについて尋ねたところ、学部では「国立大学法人だから」が 7 割近くと最も多かった。文教育学部と生活科学部では「志望する分野があったから」と回答した者も 6 割強と多かった。つづいて、「経済的な負担が軽いから」が 4 割強、「地理的条件が合っていたから」、「少人数制だから」、「大学の雰囲気・環境が良いか

ら」が3割となった。とくに理学部では「少人数制だから」を選んだ者が4割を超えた。

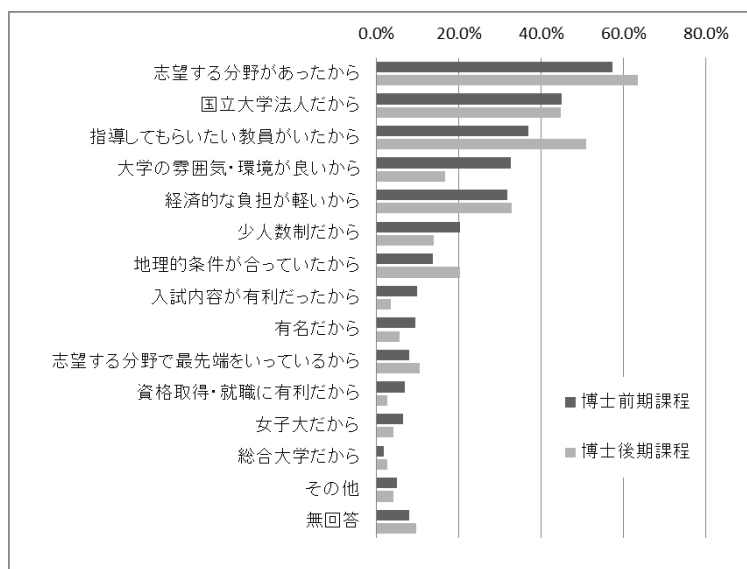
図表 7-14 本学を選んだ理由(多項選択・3つ以内)(学部)



大学院生がお茶の水女子大学を選択する上で重視したことは、博士前期課程では「志望する分野があったから」が6割弱で最も多く、続いて「国立大学法人だから」が4割強、「指導してもらいたい教員がいたから」、「大学の雰囲気・環境が良いから」、「経済的な負担が軽いから」が3割、「少人数制だから」から2割となった。

博士後期課程でもやはり「志望する分野があったから」が6割弱で最も多かったが、つぎが「指導してもらいたい教員がいたから」が5割と多かった。さらに「国立大学法人だから」、「経済的な負担が軽いから」、「地理的条件が合っていたから」を選択した割合が多くなっていた。

図表 7-15 本学を選んだ理由(大学院)



それでは、なぜ大学院に進学しようと考えたのか。博士前期課程と後期課程ではその傾向が異なる。博士前期課程では「専門知識や技術を習得するため」と「学問的な興味を満たすため」についてのみ過半数が選んだが、そのほかは「研究者になるため」、「学位を取得するため」、「すぐに就職したくなかったから」が2割程度と選択がばらついた。

博士後期課程の学生は、前期課程の学生と同様、「専門知識や技術を習得するため」を過半数の6割が選択したが、「研究者になるため」も同様に6割が選択、「学位を取得するため」についても半数が選択した。「学問的な興味を満たすため」は4割にとどまった。

図表 7-16 大学院に進学した動機(多項選択・3つまで)(大学院)

